



ごあいさつ

委員長 堀田理恵

一年間、皆様に支えていただき無事に活動できましたことに、心より感謝申し上げます。また、各郡市PTAにおかれましても活発に活動が展開されましたことにお礼申し上げます。

今年度も引き続き「命の尊さ大切さ」をテーマに研修を行いました。“受動喫煙防止”“ネットモラル”どちらについても、子どものより良い発育・発達を願う親として家庭の中の環境は健全に整っているのか、改めて、日々の生活について考えさせられました。新たな事業である「親学」家庭教育研修では、秋田市の小学校へ視察研修に伺いました。学力NO.1の秋田県の小学校では、宿題ではなく“家庭学習”が習慣となっているようです。子どもたちは自分のペースで家庭学習ノートに予習・復習をし、親が丸付けをしてコメントを書き学校に提出します。親が一手間加えたり励ましたりすることにより子どもは、「親と一緒に勉強している」と感じ頑張ることができるのだと思いました。

今後も母親委員会では、情報交換や研修を通して、家庭教育や子育てに関する課題を共有し、共に学び子どもたちの笑顔のために、皆さんと手を取り合って活動してまいりたいと思います。



各地区の活動報告

《鶴岡市》

- ・母親委員会／年2回（活動方針、情報交換、研修会、等）
- ・ブロック会議／年3回（担当母親委員による企画運営会議）
- ・母親委員会だより（年1回／2月発行）

《東置賜地区》

- ・地区P代表母親委員1名が県P母親委員会に出席しています。

《山形市》

- ・母親委員会 2回
- ・“親学”家庭教育研修（遊佐小学校視察研修）
- ・拡大母親委員会1回
講演「子どもたちを守るため、親としてできること」
講師 山脇由貴子氏
（東京都児童相談センター児童心理司）
- ・「マザーズねっとわーく」発行

《北村山地区》

- ・北村山地区Pとしての活動はないが、村山市P、尾花沢市P、大石田町Pは母親委員会組織があり、各々単位PTAで活動を行っている。

〈県P母親委員会メンバー〉



《米沢市》

- ・母親委員会 4回
 - *情報交換・・・2回
 - *講演会・・・1回
 - *研修会・・・1回

《天童・東村山地区》

- ・今年度は、山形県PTA研修大会主管地区であったため、母親委員会の活動は行わず研修大会の運営に携わりました。
- ・「母親委員会だより」発行

《西村山》

- ・母親委員会 3回
 - *協議 *講演会（高橋芳子氏）
- ・代表委員会 3回
（母親委員会による企画運営）

《最上地区》

- ・定例母親委員会 2回
- ・地区母親委員会全員研修会年1回
講演「親として地域として子どもとどう向き合うか」
～家庭や地域におけるいのちの教育～
講師 後藤敬子氏（県家庭教育アドバイザー）
演習「地域や家庭で取り組めること」

《酒田飽海》

- ・母親委員長等会議 2回
 - 第1回 情報交換
 - 第2回 講演「保護者同士の人間関係づくりや教師と保護者の関係づくりのために」
講師：國眼眞理子氏（東北公益文化大学）
- ・酒田飽海PTA研修大会への協力

〈秋田:勝平小学校視察研修〉



《西置賜地区》

- ・定例母親委員会 2回
- ・母親委員会だより発行（各校活動報告等）

《東田川郡》

- ・母親委員会 2回
 - *活動報告
 - *情報交換等

〈母親委員研修“性教育”〉



《上山市》

- ・母親委員会 3回
- ・研修会、情報交換 1回
講演「家族の守備力をアップする話」
講師 高橋史香氏（消費生活アドバイザー）

テーマ「命の尊さ大切さ」

～受動喫煙防止を進める理由とその対策～

第1回母親委員会時
に研修しました

日時：5月31日（土）13:00～14:00

場所：山形まなび館 交流ルーム4

講師：川合厚子氏（公徳会トータルヘルスクリニック院長）

◆研修のねらい

受動喫煙の実態や受動喫煙防止を進める理由とその対策についてお話を伺い、子育て世代である“親の喫煙”や“子どもの受動喫煙”の弊害について、どのように判断するべきなのか研修しました。

◆研修の内容

タバコ

依存性

タバコに含まれるニコチンが依存を作り、ニコチンの禁断症状でイライラし、仕事のミスに繋がり、また吸うという悪循環から依存に陥る。タバコをやめることはヘロインやコカインをやめることより難しい。

毒性

タバコには4000種類の化学物質が含まれており、その中には200種類以上の有害物質が含まれていること。さらにその中には発がん物質が70種類もある。

能動喫煙

・自分の意志で喫煙すること

受動喫煙

・家族や他人の喫煙により、子どもや非喫煙者がいつの間にかタバコの煙を吸わされていること

残留
受動喫煙

・タバコの有害物質が、衣服や髪の毛、壁やソファ等に付着し、その残留有害物質を吸い込むこと

子どもたちへの悪影響は？

- ・副流煙の有毒性は主流煙より高く
乳幼児突然死症候群・中耳炎・気管支炎・肺の感染症・肺機能低下・言語能力低下・注意力散漫など、子どもの健全な成長に影響を及ぼすかもしれません。
- ・見過ごされやすい、車の中や家庭の中での受動喫煙を防止する必要があります。

「百害あって一利なし」

川合厚子先生のお話を聴き、タバコの恐ろしさを実感しました。なかでも心に残ったのが、「third-hand smoke」という言葉です。能動喫煙・受動喫煙による、一次・二次喫煙被害の他に、タバコを消した後、壁やカーペット、ソファ等にしみこんだ残留物質から有害物質を吸入してしまうこと（残留受動喫煙）による「三次喫煙被害（third-hand smoke）」が、近年注目されているそうです。

タバコの煙が存在しなくとも、煙の残留物によってタバコを吸わない者へも悪影響が及び、しかもそれが、タバコを吸っている本人よりも身体への悪影響が強いという恐ろしさがあります。様々な場所で禁煙が叫ばれ、喫煙者には肩身の狭い昨今、「マナーを守ればある種、ストレス解消の一つとして、そんなに否定しなくても…」などと考えていましたが、甘すぎました。麻薬以上に依存性が強いともいわれるタバコ、本当に『百害あって一利なし』です。

酒田飽海：佐藤 みどり

「受動喫煙防止・条例化を！」

以前中国のPM2.5が話題になり、保護者である私たちもかなり神経質になった時期がありました。タバコの煙はこのPM2.5の典型的な物質だそうです。車内で窓を閉めてタバコを吸うと北京のひどい日の4倍超、運転席・助手席の窓を少し開けて吸っても北京の3倍超だそうです（いずれも後部座席の方が高い）。この中に子どもを乗せていたら…考えただけでも恐ろしいことです。こういったことは、なにも車内での喫煙だけの話ではないようです。分煙している飲食店などでも同じことが言えます。出入り口が開閉したとき、服や毛髪についたタバコ臭、呼気に含まれるタバコ臭などからも受動喫煙の危険性があります。

こうしたことから、子どもたちの命や健康を受動喫煙から守るためにも「分煙」ではなく屋内すべてを禁煙にすることが不可欠のようです。そのためには罰則などの強制力のある「条例化」を目指していかなければならないと思います。タバコを吸わない大人や子どもが他の人のタバコの煙で健康を損なうことを防がなければなりません。

米沢市：安部 淑子

ネットモラル講習会

日時：9月20日（土）13：00～15：00

場所：山形市保健センター視聴覚室

講師：小木曾 健 氏(グリーン株式会社)



～ネットに依存しない子、ネットを賢く安全に使える子を育てる～

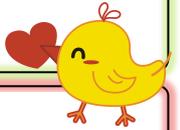
実際におきた事例から、スマホが普及している現代に潜む落とし穴や個人情報拡散の危険、ネット上でのトラブルの原因などを分かりやすく教えていただき、まず家庭でできることは何かを具体的に知ることができました。「似た講演の中で一番分かりやすくよかった」などの声があり、大変有意義な講習会となりました。

SNSとは

SNSとは、“人と人を結びつけるもの結び付きを強めるもの”であり、「駅の伝言板・ペンパル募集の雑誌の投稿・縁談を持ち掛けてくる親戚」これらは全てSNSであり、SNSは決して新しいものではない。昔のSNSと現代のSNS（インターネット）の相違点は伝達のスピードや伝達されてしまう範囲が大きく異なる点です。

インターネット利用上の問題点

インターネット上にスマホ等で撮影した写真をアップする際にExif情報に付加される位置情報の問題があります。北緯と東経が写真のプロパティから参照できてしまうのでGoogleMapなどで検索すればかなりの精度で場所を特定できてしまいます。無自覚で自分の居場所を発信しないよう、位置情報サービスの設定を確認しましょう。



日常生活とインターネット

“日常の生活とネットは地続き”です。ネットは単なる道具にすぎず、意見を述べたりする公共の場所であるから、日常生活でやっていいことはネットでも許されるし、逆に日常生活でやってはいけないことはネットでもやってはならない、と考えると納得できます。ネット上に投稿する際に、「家の玄関に貼ることが出来る内容か？」と考えてから投稿することで炎上するリスクは抑えられます。「自分の投稿なんて誰も見ていないから」と考え安易に投稿することは大変危険なことだと認識しましょう。

親フィルタリング

ネットのトラブル対策について、親が『知らない』では済まされない時代です。“親フィルタリング”→初めは、パスワードを親が管理し設定やダウンロードは親の判断で行います。時期を見て子どもにパスワードを教える構いませんが、パスワードは変更させないようにします。常に親の管理下にあるという緊張感を持たせるためです。携帯電話以外にも、ゲーム機、ポータブル音楽プレーヤー、おもちゃタブレットなど、ネットにつながる家電は増えています。購入ごとに確認と設定が必要です。また、機能的に判断するフィルタリングは万全とはいえないので注意してください。

《研修後に思うこと》

普段何気なく利用しているインターネット、スマホなどについて、危険性と利便性を知ることが出来ました。昨今、危険性ばかりが問われていますが、必ずしもネットが悪いわけではありません。ネットを賢く・安全に使える子どもを育てる必要があります。そのためには、私たち親が、インターネットに対して理解を深め、つねに勉強する必要があると思います。「知らない」「分からない」では済まないのです。

直接どこにいと知らせなくても、投稿された写真で、位置情報が分かり個人の身元が特定されることがあります。どこの誰が見ているか分からないというのは、とても怖いことです。『間に5人はさむと知り合いになる』という言葉があるそうです。日常とインターネットは繋がっているという感覚をもって、“スマホを子どもに渡すときは親がパスワードを決める”など、見守る義務があるのです。事例を交えた講習会で、インターネットの怖さをあらためて知ることが出来ました。スマホ等のOA機器は常に進化しているので「前に聞いたからいいや」ではなくて、こういった講習会に積極的に参加する姿勢も大事だと思います。

最上地区：高嶋 美恵

子どもたちが所有しているネット端末は携帯やスマホだけではありません。携帯ゲーム機も、音楽プレーヤー



(小木曾健氏)



も、ネットに繋がるようになっていきます。それだけネットが身近な今、「ネットだから」という軽い気持ちで起こした行動が、いじめや犯罪、自殺にまで結びついてしまう場合もあります。『ネットのモラルを守る』=『人の命を守る』という意識を持つ必要もあるでしょう。また、ネットで起きている課題や問題は子ども特有のものではなく、大人も同じ課題を抱えています。子どものネット端末の利用状況を見守り、子どもの安全な利用をサポートできる知識を身につけ、子どもと一緒に保護者もネットの本質を理解していく必要があります。子どもがトラブルに遭遇した場合は、保護者も一緒に解決しなければなりません。便利であると同時に、自分や周囲の人たちの人生や命に影響を及ぼす道具でもあるのです。だからこそ、より安全に、賢く、利用しなければなりません。子どもも保護者も、情報機器を便利で快適に、賢く利用できる人、スマートに使いこなせる人になれるよう、ぜひ親子一緒に取り組んでいきましょう！

鶴岡市：丸谷 和香

「秋田市立勝平小学校視察研修」

平成26年7月4日(金) 1:30~15:30

- 学校からの説明 …… 学力向上・家庭学習・学校経営に関すること。児童数725名 学級数25
研究主題「学び合う力を育てる」活動主題「心を育てる」
- 授業参観 …… 全クラスを参観
- 質疑応答の時間 …… 子どもたちの学習について
- 勝平小PTAとの懇談 …… 秋田県PTA連合会会長、母親委員長も参加し懇談

学力日本一
秋田県

勝平小学校は、校舎の造りや設備も整っており、教室は四角ではなく鉛筆のような六角形の部屋で、児童は参観中も落ち着いて授業に集中していました。家庭科室には、調理の様子が天井に写る鏡や、体育館ステージ後ろには窓があり明るく、要所に使いやすさを感じました。

学校の説明では、地域と学校が「連携の絆」を深めること、そのための教育プランを策定し、保護者・PTAと協力し合うとの話がありました。すぐ隣に秋田商業高校があり働く意味や厳しさを学ぶ交流や、夏休みに学習会を開き中学生が小学生に勉強を教えるなど、小学校を中心とした地域活動をしているとお聞きしました。驚いたのは平日宿題がなく週末の休みにプリント数枚だけであとは自主学习。その自学こそが『カギ』で、ノートに1ページだけでも良く、好きな勉強や絵を自由に、毎日家庭学習をするのだそうです。保護者の“まるつけ”、先生のコメント、とにかく毎日目を通してあげる協力をしていました。その自学ノートの内容が本(「ぼくのわたしの学習ノート」として出版されていて、家庭学習の仕方が載っています。小学生の親にとって参考になるのではと思う本でした。地域と学校が好きな子どもに育つ小学校だと思いました。視察研修に参加させていただき、ありがとうございました。

西置賜地区：舟山 みほ

今回視察に伺った学校は、木の温もりに包まれたとてもおしゃれな小学校でした。まず、全クラスの授業を短時間ではありましたが参観させて頂きました。

この学校では、先生と保護者の繋がりが強く、家庭学習では保護者の協力も素晴らしいと感じました。それがあからこそ子どもたちは落ち着いて学習にのぞみ、先生は、児童を引きつける授業を目標に、課題を持たせ、考えさせ、みんなで解決していくことを指導していました。やはり先生・児童・保護者の絆が強く結ばれていることが「学力日本一」に繋がっているのではないかと思います。

東田川郡：遠田 由美子

「第46回東北ブロックPTA研究大会盛岡大会」【平成26年9月6~7日】 主題：「希望郷いわてで語り合おう!未来を創造する子どもたちの“ゆめ”を“こころ”をそして“つながり”を」

第5分科会「家庭と中学校教育」に参加して

基調講演者：岩手県教育委員会教育委員長 八重樫勝先生

パネリスト：山形県PTA前母親委員長 高橋裕美さん 他2名

〈基調講演より…一部抜粋〉

- ・命が軽んじられている。毎日のように自殺や他殺がある。
- ・良くない情報の氾濫。良くない情報が目に入ったときは「ひどいな」と親がつぶやくのも手である。
- ・大人の目に余る言動。子どもはよく大人社会を見ている。
- ・「みんながちがってみんないい」子どもを評価するのはテストだけでなく多様であるべき。
- ・「どのような道をどのように歩くともいのちいっぱい生きればいぞ! (相田みつを)」子どもの成長、幸せを温かく見守り続ける大人でありたい。

〈パネルディスカッションより…一部抜粋〉

- ・高校選抜が中学校の役割だが最も大切なことは子どもの願いを叶えること
- ・自己肯定感向上のためには、すごいね・できたね・さすがだねの一言が大切
- ・先生と親の接点を確保するには学校を離れて懇親会等が有効
- ・親は子どもの前では他人や先生の悪口を絶対に言わない
- ・親として子どもから喜びを得ることは多い。子どもからもらうパワーは大である。親と子・先生と生徒・先生と親、相手に興味を持ち向き合うこと。

東置賜地区：川崎 優子

「お久しぶり

ですね!」
秋田県の
母親委員
長でした。
会場で募
金箱を持
ち来場者



ち来場者に声をかけていました。

私が、母親委員を引き受けて、一番得たもの!それは、いろんな方との出会いでした。参加した第5分科会は山形県PTA前母親委員長の高橋裕美さんもパネリストとして活発な意見を述べられていました。「親は、子どもたちから喜びやパワーを得る事が生きがい。親と子、教師と生徒、教師と親、縦と横のつながりを密にする。子どもが自分の目で、親の背中を見て育ってほしい!」というのが私の結論です。研究大会に参加し新たな出会いがありました。ありがとうございました。 西村山：鈴木 三香子

編集委員

堀田理恵(山形市)/大崎理恵(天童・東村山)
佐藤千賀子(上市市)



あとがき

今年度は「勝平小学校視察研修」など、新しい活動も加わり母親委員同士の交流も活発に行われました。地区が変われど子どもたちへの思いは一緒。かあちゃんパワーを実感できた一年でした。

副母親委員長 大崎 理恵